

平成30年度 全国学力・学習状況調査における

北九州市立 深町 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成30年4月17日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語, 算数, 理科)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語, 算数, 理科)

主として「知識」に関する問題(A)	主として「活用」に関する問題(B)
・身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容	・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力
・実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能	・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

※理科については、主として「知識」に関する問題と主として「活用」に関する問題を一体的に問う。

- (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

※本校の6年生については、単学級ですので、個人が特定されないように公表の方法については、配慮しています。

3. 教科に関する調査結果の概要

(1) 全国・本市の学力調査(国語A・B, 算数A・B, 理科)の結果

本年度の結果	国語A		国語B		算数A		算数B		理科	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.5	71	4.3	54	8.6	61	5.0	50	9.6	60
全国	8.5	71	4.4	55	8.9	64	5.1	52	9.6	60

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語A	全体的な傾向や特徴など	・全体的には全国平均正答率を下回っていた。しかし、「話すこと・聞くこと」は他の領域と比較して正答率はやや高かった。 ・「読むこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」は全国平均正答率を下回っていた。
	よくできた問題	・説明として適切なものを選んだり、慣用句の意味と使い方として適切なものを選択することについての正答率は高かった。
	努力が必要な問題	・文章中の主語と述語との関係、敬語の使い方、文中の漢字を適切に使う点については正答率が低かった。
国語B	全体的な傾向や特徴など	・全体的には全国平均正答率を下回っていた。しかし、「読むこと」については、全国平均正答率と同程度であった。 ・「話すこと・聞くこと」については全国平均正答率は下回っていた。
	よくできた問題	・「目的や意図に応じて文章全体の構成を効果的に考える」「目的に応じて複数の本や文章などを選んで読む」は、全国平均正答率を上回っていた。
	努力が必要な問題	・「質問の意図を捉える」「話し手の意図を捉えながら聞き自分の意見と比べるなどして考えをまとめる」「目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして詳しく書く」については、全国平均正答率が下回っていた。
算数A	全体的な傾向や特徴など	・全体的には全国平均正答率を下回っていた。しかし、「数量や図形についての技能」は全国平均正答率と同程度であった。 ・「数と計算」は全国平均正答率を下回っていた。
	よくできた問題	・「円周率の意味理解」や「百分率を求めること」「折れ線グラフから変化の特徴を読み取ること」は全国平均正答率を上回っている。
	努力が必要な問題	・直径の長さや円周率の長さの関係について「角の大きさについて」「1に当たる大きさを求める問題では除数が小数でも除法を使える」ことへの理解は、全国平均正答率を下回っている。
算数B	全体的な傾向や特徴など	・全体的には全国平均正答率を下回っていた。しかし、「数と計算」の領域は、他の領域よりは上回っていた。 ・「図形」領域については、「量と測定」「数量関係」の領域よりも全国平均正答率を下回っていた。
	よくできた問題	・「折り紙の輪の色の規則性を解釈し、それを基に条件に合う色を判断する」問題は全国平均正答率を上回っていた。
	努力が必要な問題	・「合同な三角形で敷き詰められた模様の中に条件に合う図形を見出す」問題、「図形の構成要素や性質を基に集まった角の大きさの和が360度になっている問題」については全国平均正答率を下回っていた。
理科	全体的な傾向や特徴など	・学習指導要領の「A区分」「B区分」については、全国平均正答率を下回っていた。 ・「B区分」の地球に関する点については、特に課題が残された。
	よくできた問題	・「人の骨が曲がる仕組み」「堆積作用に関する科学的な概念」「乾電池のつなぎ方における電流の流れの変化」「質量保存の法則」については、全国平均正答率を上回っていた。
	努力が必要な問題	・太陽の1日の動きと光電池の電流との関わりについては課題が残された。 ・実験を通して結論を導き出す問いについても、課題が残った。

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要

質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> ・授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる。 ・学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。 ・家庭では計画を立てて学習を進めている。・家庭では学校の宿題を進んでしている。 ・学校の授業以外に、普段(月～金)1日60分以上学習している児童は全国平均と同様である。 ・地域とのかかわりは、児童にとっては大変深い関係にある。地域の祭りなどの行事については、積極的に参加している。 ・朝食を毎日食べている児童は多い。・毎日、同じくらいの時刻に寝ている児童は多い。 ・学校のきまりを守るなど規範意識は高い。 ・自分には、よいところがあると感じている児童は全国平均と同様である。・人の役に立つ人間になりたいと思っている児童は多い。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

<ul style="list-style-type: none"> ○担任は、一単位時間の学習のなかで、めあてを立てる時間とまとめをする時間を確保する。学習の終末段階に「振り返り」を記述させ、次時の学習につなげさせる。また、一単位時間の学習の流れを繰り返すことにより児童に学習スタイルを習得させ見直しをもって学習に取り組ませる取り組みを継続して行う。 ○担任や関係職員は課題(ワークポイント)をもとに、「チャレンジタイム(朝自習)」でワークポイントに特化した内容を重点的に、「ワークポイント解消週間」で1学期同様取り組む。(算数プリント、アンストシート、WEB問題等の活用)
--

② 家庭生活習慣等に関する取組

<ul style="list-style-type: none"> ○担任は、家庭学習の進め方を児童に指導を、児童の発達を考慮しながら家庭学習の定着を図る。また校長は児童の家庭学習の取り組みを理事会等で確認、家庭学習の大切さを伝えていく。 ○保護者には児童の実態を学校通信や理事会等で伝え、理解してもらい、協力してもらうようにする。
